

## 令和4年度 第1回静岡市中央卸売市場将来構想検討委員会 会議録

- 1 日 時 令和4年12月22日(木) 午後2時～午後4時半
- 2 場 所 静岡市役所静岡庁舎本館 議会特別会議室
- 3 出席者 **【委員】**  
藤島廣二委員 岩崎邦彦委員 山下昌徳委員 森下登志美委員 上川雄司委員  
百瀬伸夫委員 宮原晃樹委員 中村満委員 増田新委員 伊藤早紀委員  
  
**【事務局】**  
稲葉光経済局長 大村博経済局次長 杉山禎之経済局参事 長島正卓市場長  
久保田和利市場長補佐 谷津寿夫業務係長 大谷則隆施設係長
- 4 傍聴者 1人
- 5 報 道 2社
- 6 議事内容 ①開会  
②開会挨拶  
③委員自己紹介  
④本会議の主旨説明  
⑤委員長選出  
⑥委員長あいさつ  
⑦講演  
⑧静岡市場の状況分析説明  
⑨討論  
⑩総括  
⑪閉会挨拶  
⑫閉会
- 7 配布資料 ・次第  
・資料① 委員名簿  
・資料② 静岡市中央卸売市場将来構想検討委員会規則  
・資料③ 主旨説明補足資料  
・資料④ 卸売市場の公共性と機能(講演の資料)  
・資料⑤ 静岡市中央卸売市場の概要
- 8 会議記録

(1) 開会

【事務局：久保田市場長補佐兼総務係長】

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

只今から第1回静岡市中央卸売市場将来構想検討委員会を開会いたします。

◆配布資料の確認

- ・次第
- ・資料① 委員名簿
- ・資料② 静岡市中央卸売市場将来構想検討委員会規則
- ・資料③ 主旨説明補足資料
- ・資料④ 卸売市場の公共性と機能
- ・資料⑤ 静岡市場の概要

◆マスク着用での発言のお願い

(2) 開会挨拶

【事務局：稲葉経済局長】

皆様こんにちは。経済局長の稲葉でございます。

本日の会議は初回ということで、今資料の説明がございましたが、資料も多く内容も非常に盛りだくさんということでございます。時間も2時間ということで長い時間を予定させていただいております。申し訳ございません、したがって挨拶も手短かにということと、委員の皆様への委嘱状につきましても机の上に置かせていただいております。これをもって委嘱させていただくということで、どうぞよろしくお願いたします。

この会議の主旨、それからご意見いただきたい点などについては、このあと事務局から説明をいたしますが、特に財政面などを理由にこれまで静岡市としてなかなか結論が出なかったというテーマでございます。市場を取り巻く環境の変化について、そして法制、法改正、何より市場施設の老朽化という中で、いよいよ待ったなしということで、方針を市として決めていくという状況でございます。このあとご出席の皆様から自己紹介賜りたいと思いますが、卸売市場、マーケティングのご専門の先生方、市場の入口、出口、それぞれに関係される皆様、また、市場だけでなく周辺も含めてまちづくりの観点からご意見いただきたいということで、ご出席いただいている委員の皆様にお集りいただいております。

今年度から来年度にかけて会議を予定しております。幅広に議論いただきたいと思っております。皆様どうぞよろしくお願いたします。

【事務局 久保田市場長補佐兼総務係長】

本日は委員10名のうち10名の参加となっており、会議の開催要件である過半数を満たしており、「静岡市中央卸売市場における将来構想の検討に係る臨時的事務を処理するための附属機関に関する細目を定める規則」第7条第2項の規定により会議は成立しています。また、本市におきましては「附属機関等の会議の公開に関する要領」に基づきまして、本会議は公開とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。本会議は公開とさせていただきます。また、当会議は会議録を作成します。議事録の署名人は、後ほど選任される委員長とほか委員1名、合計2名にお願いさせていただきます。後ほどご案内いたします。

それでは、委員の皆様から自己紹介をお願いします。

### (3) 委員自己紹介

#### 【東京聖栄大学 健康栄養学部客員教授 藤島廣二委員】

東京聖栄大学で客員教授をやっている藤島と申します。私は卸売市場のことを中心に食品あるいは生鮮品の流通システムを調査分析しています。本日も皆様のご意見をお伺いしながら勉強して参ると同時に、不十分ではございますが、私の経験に基づいた提案などさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

#### 【静岡県立大学 経営情報学部教授 岩崎邦彦委員】

こんにちは。静岡県立大学の岩崎と申します。私はマーケティングの研究をしています。マーケティングを通して地域の元気、振興に貢献したいと考えております。市場も地域にとってなくてはなりません。この委員会では、市場を通じて地域の活性化等に少しでも貢献できるような話ができればなと思っております。よろしくお願ひいたします。

#### 【静岡県経済農業協同組合連合会 山下昌徳委員】

静岡県経済農業協同組合連合会の山下と申します。どちらかという私は農業者、出荷者側の立場ということで出させていただいているだろうと思っておりますので、是非活発な議論をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

#### 【静岡大型店・スーパーマーケット連絡会会長 森下登志美委員】

皆様こんにちは。しずてつストア社長の森下でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。日頃よりお世話になっております。

今回この会議に参加させていただいたわけでございますけれど、私個人的には富士山静岡空港の取締役でございまして、あの空港をつくった立場でございます。マーケティングについてはご専門の先生方がいらっしゃいますが、皆さんにお使いいただいているルルカカードは実は私が企画提案して作ったものでございます。売る立場のみではなく使う立場としてもご意見させていただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

#### 【協同組合静岡流通センター 専務理事 上川雄司委員】

上川です。よろしくお願ひいたします。私共は昭和50年に隣に72社を擁する卸売団地を作りました。そして昭和51年に静岡市の中央卸売市場が出来上がったということで、私共が1年早く

建っておりますけれど、市場と一緒にこの流通地域の活性化のために努力をしてみたいと思っております。私共は静岡市のご協力のもと 42 億くらいの投資をして手前で団地を作ることをしております。静岡市のためになるようなかたちで貢献ができればなと思っております。よろしくお願いいたします。

【一般社団法人 IKIGAI プロジェクト理事 百瀬伸夫委員】

百瀬でございます。よろしくお願いいたします。

私は東京の広告会社に長いこと勤めまして、退職後、商業の活性化とかまちづくりの仕事に携わっています。静岡市さんとは 10 年くらいのお付き合いで、今も様々な委員会協議会のメンバーに就かせていただいています。様々な部局から相談いただいてアドバイスさせていただいています。どうぞ今回よろしくお願いいたします。

【前静岡市都市局長 宮原晃樹委員】

宮原と申します。よろしくお願いいたします。

私は 3 月まで都市局でお世話になっておりまして、専門は土木で、都市計画とか道路とか、そんなところが対象となっております。このあたりをお話しできればと思います。

3 月に役所を辞めてから安倍川の奥の方で、実家があるものですから、そちらでワサビを作っていて、生産者ということもありますので、そんなところも話しできればと思います。よろしくお願いいたします。

【葵区連合自治会長 中村満委員】

中村です。どうもお世話になります。

自分は連合会長は 10 月の終わりに瀧会長が亡くなりまして、その後任として 11 月 7 日の日に理事会などを経て仰せつかったものですから、まだ浅くて判らないけれども勉強しながらやっていくので、よろしくお願いいたします。

【公募市民委員 増田新委員】

増田です。よろしくお願いいたします。

今回応募させていただいた件ですけれど、自分は清水の漁業協同組合 用宗支所で勤務させていただいているんですけれど、そんな中で漁協というところは生産者側の方がかなり多く存在しまして、一般的にうちの漁協の市場（いちば）ではシラスを主に扱っています。シラスの方ですけれど、うちの市場（いちば）で全て捌けてしまうものがありますが、他の組合員の方、刺し網、一本釣りやっている方もかなり多く、（中央卸売）市場の方に生産者として出荷している方もかなり多くいます。

どんな中で市場の新しい検討委員会で、先ほどの J A さんの山下さんと同じように魚関係、鮮魚関係の方での良い案や意見が言えたらと応募させていただきました。

【公募市民委員 伊藤早紀委員】

今回、市民委員になりました伊藤と申します。よろしくお願いいたします。

私は今、仕事で藤枝市の蓮華寺池公園周辺の地域活性化事業を行っています。  
また、仕事をしながら静岡大学の大学院に通っており、行動経済学を専攻しております。仕事と大学とで学んだことを活かして貢献していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【事務局 久保田市場長補佐兼総務係長】

続きまして、事務局をご紹介します。

(各人より) 大村局次長、長島市場長、杉山局参事、谷津業務係長、大谷施設係長

今年度の調査業務の委託事業者を紹介します。

(各人より) 流通研究所 剣持、大池

それでは、本会議の主旨について、事務局より説明させていただきます。

(4) 本会議の趣旨説明

【事務局 大谷係長】

会議に先立ちまして、事務局から、当委員会の主旨と、これまでの経過などについてご説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、当委員会の主旨についてですが、資料②をご覧ください。

こちらは静岡市の規則で、この委員会設置の根拠となるものです。

ページ中段辺りにある、第3条にこの委員会の所掌事務が明記されていますので、ご覧ください。

この委員会の所掌事務は、将来構想について、調査審議していただき、市長に意見を述べていただくこと。という主旨で設置されています。

この会議においては、将来構想において整理すべき課題について調査審議いただき、令和5年度半ば頃を目途に、その取り組むべき方向性について「提言書」として、静岡市長あてにご提出いただきたいと思いますと考えております。

市では、この委員会からの提言の内容と、今後市場内事業者と進める協議内容をふまえて、当市場の運営や施設整備の基本方針となる「将来構想」を来年度中に策定し、それを具現化するための事業について、市の最上位計画である第4次総合計画への搭載を検討していきたいと考えています。

そのために整理すべき課題としましては、今後の議論によって変わってくる可能性があります。が、現在市では大きく3つの課題があると考えております。

1つ目は、静岡市における当市場の必要性、公共性について明らかにし、それを広く共有すること。

2つ目は、食のインフラとしての市場の本来機能のあり方と、持続可能な経営の方策について整理すること

3つ目は、現在の市場の立地の利点や、その周辺環境、資源を活かし、今後当市場が果たすべき役割としてどんなことが考えられるか。

以上3点について、この委員会で皆様に調査審議いただきたいと考えております。

それでは、次に、これまでの経過などについてご説明いたします。お手元に資料③の「主旨説

明補足資料」をご覧ください。

資料1枚目左上に「考案経過」と書いてあるものですが、左側に国の動向について、右側に本市場の対応状況について、それぞれ時系列にて整理しております。

また、各項目の左上に番号をふっており、この順番にて説明してまいります。

まず、1の国の方針等ですが、これは農林水産省が5年に一度、卸売市場の運営、施設整備に関し、基本方針を定めているもので、全国の卸売市場はこの方針に沿って市場の運営を今まで行ってまいりました。直近の真ん中あたりの第10次卸売市場整備基本方針ですが、これは期間が令和2年度であり、すでに計画期間が終了し、廃止となっているものですが、その中ではこの後ご説明しますが市場の経営戦略となる経営展望の策定を各市場に国が求めてきたものです。そうした流れを受けまして、2の本市の計画等をご覧ください。まず静岡市中央卸売市場将来構想を平成23年に策定いたしました。こちらは、令和2年までが計画期間となっており、すでに期間終了となっています。その下の静岡市中央卸売市場経営展望、こちらにつきましては、平成30年に市場内事業者とともに開設者の静岡市が策定したものとなります。計画期間が令和9年までの10年間ということで、内容としましては、集荷力・販売力の強化、施設機能の充実、開放型市場への転換を定めております。この経営展望に基づいて、私共静岡市場を運営しております。取組として実際におこなってきたこととして、3の取組成果になりますが、コールドチェーンの推進、市場事業者の経営基盤強化、市民に親しまれる市場ということを進めてまいりました。そうした中、国の方針に戻りますが、令和2年6月に卸売市場法が全面改正となり、その中で市場の位置づけもかわってまいりました。内容としましては、取引ルール規制の大幅な見直し、開設区域の撤廃、開設者を地方自治体以外へ拡大、こうした改正によって、それぞれ定めた基本方針も法律に基づいて策定してきましたが、法改正により、基本方針も廃止となりました。

これによって、その下の5になりますが、国の関与は大幅に縮小、各市場が特性を活かした独自の取組みや、選ばれる市場となるためには付加価値が必要となってきました。こうした変更に伴って、全国の市場では、市場のあり方や施設整備基本方針の検討を進めてきています。近隣他市場の状況にありますとおり、浜松市場、岐阜市場も記載のような状況です。

一方、静岡市場においては資料右下のとおり、老朽化した施設の充実や物流機能強化、また財政健全化、開放型市場への転換、地域との連携といったことが、解決すべき課題としてであると認識しています。

続きまして、ページをめくっていただいて、左上に静岡市中央卸売市場と周辺環境というものの真ん中に写真があるものになります、こちらをご覧ください。

こちらは、これから委員のみなさまに市場の将来像を検討いただくにあたって、市場周辺には、どのような地域資源があるのかというものを整理し、まとめた資料になります。この絵がなにか決まったものというのではなく、市場周辺はこのような状況にあると考えていただきたいと思います。

こちらを説明しますと、真ん中に写真がありますが、静岡市場を青色、麻機遊水地が黄色、本日お越しいただいている静岡流通センターさんを赤色で示しています。

まず、静岡市場の状況を説明させていただきますと、こちらに記載してある内容は、平成30年に策定した経営展望をベースに、現在の社会情勢の変化、例えば市場のDXなど、取り組むべき

ものを要約したものとなっています。この中で左側が、市場の本来機能となり、市場の衛生管理の高度化や市場DX化を、右側には、卸売市場の一般開放や場外市場など賑わいの創出を取り上げています。

一方、周辺地域としましては、麻機遊水地と静岡流通センターをあげていますが、これ以外にもヘリポートや温浴施設ゆららなどの地域資源があります。

麻機遊水地、静岡流通センターにおいては、それぞれ協議会を設けており、それぞれランドデザインや将来のビジョンを策定、または検討している最中であり、市の関係部局もオブザーバーとして参加して、連携を図っています。この中で例示として、示しているところです。

資料3枚目に移っていただくと、こちらは、検討スケジュール（案）となっています。スケジュールが上から3段に分かれて示しておりますが、1段目が事業の全体計画、真中2段目が個別の取組スケジュールを、3段目に当委員会のスケジュールを記載しております。

順番に説明していきますが、まず、全体の事業の流れですが、今回は令和4年度から5年度にかけて、将来構想検討委員会とその下にある、各種調査業務や市場内事業者とのWGなどの協議を経て、今年度、来年度にて、実施し、そこでまとまった意見を市のコンセンサスを得て、来年度末に、将来構想を策定していきたいと考えています。

続きまして、下段の市場機能の高度化・DX化と市場の一般開放・場外市場につきましては、現在、市場DXについては、市場内事業者らによる実証実験を行っており、また、庁内関係部局による市場周辺活性化WGにおいて、市場用地や市場周辺との連携策について、検討、アイデアだしを始めたところです。

こういった動きをみなさまと共有しながら、来年策定予定している将来構想を策定していくにあたり、課題整理をお願いできればと行っていただければと思っております。

3段目の当委員会のスケジュールですが、今年度3回、来年度2回、計5回の開催を予定していますが、各回の議論の状況により、変わってくる可能性もあり、現時点でのスケジュールとなります。最終的には、市に対して、提言をお願いしたいと思えます。

事務局からの説明は以上です。

#### (5) 委員長選出

岩崎委員より藤島委員を推薦する提案があり、他の委員から異議がなかったため、藤島委員を委員長として選出

#### (6) 委員長あいさつ

藤島 廣二委員によるあいさつ

※以下、【藤島委員長】と表記

#### (7) 講演

東京聖栄大学 客員教授 藤島 廣二 農学博士

「資料④ 卸売市場の公共性と機能」に基づき講演

(8) 静岡市場の状況分析説明

株式会社流通研究所 大池研究員

「資料⑤ 静岡市場の概要」に基づき説明

(9) 討論

【藤島委員長】

続いて次第の9番目の「討論」、そちらの方に入らせていただきます。

ただいま御説明いただいた内容について判り難いことへの質問でもよろしいですので、何なりとご質問いただければと思います。

よろしければ項目を2つ、ひとつは「静岡市場の公共性必要性について」議論いただくことができればと考えております。ふたつめとしては「静岡市場が、静岡市民や生産者、事業者等に貢献していくために果たすべき役割や期待すること、機能強化や新たな機能等」について御議論いただければと思います。

ひとつだけ私の方で確認させていただきたいのは、先程資料17頁のところ、右下の「青果部 54.2% 水産物部 72.5%」というのは、生鮮品に関しては、青果部は「市内で消費者の方々が消費するうちの54.2%を静岡市中央卸売市場から供給しています」と、残りの約46%ほどは他の市場あるいは他のところから来ているという意味でしょうか。

【大池研究員】

この54.2%は卸売市場経由率の中の54.2%になりますので、卸売市場を経由して静岡市内に行く野菜の54.2%が静岡市場からで46%は他の卸売市場からです。更に卸売市場の全体の経由率が53.6%なので、残り47%くらいというのは卸売市場以外のところから何かしらの手段を使って経由されるというような推計となります。

【藤島委員長】

もう一度確認ですけど・・・

卸売市場の、この静岡市中央卸売市場の取り扱っているうちの54.2%が静岡市内に行き、それ以外は他のところに行っていますよ、ということではない訳ですよね？

静岡市中央卸売市場の取扱物は、ほぼ静岡市内に供給されているとしても、静岡市民の必要とする54.2%に止まっていますよ、ということですね？

【大池研究員】

静岡市民が必要とする青果部が取り扱う品目の総計の中の、53.6%が卸売市場を経由します。

その中の54.2%が静岡市場を経由して来ていると・・・

【藤島委員長】

卸売市場を通して供給している量は、静岡市民が必要とする53.6%ということですね？



このうちの 54.2%は静岡市の卸売市場から出ている分ではない訳ですね？

【大池研究員】

静岡市民が使っている青果部の取扱品目が 100 だとして、そのうちの 53.6%が全国の卸売市場経由率になりますので、53.6%の中の静岡市場を経由しているのが 54.2%になります。実質 25%くらい。

家計消費額の支出金額から静岡市場を経由しているのは大体 25%くらい。

【藤島委員長】

静岡市の中央卸売市場から、静岡市の市民の消費のうちの 20 数%しか供給されてないと。

【大池研究員】

あくまで推計ですけど

卸売市場経由率が 53.6%なので、家計消費額の 53.6%が卸売市場を経由しているというふうに推測いたしまして、そこから量的に静岡市場の量を計算すると、29.1%になります。

【藤島委員長】

それは青果物、加工品も含めての話ですよね？

【大池研究員】

加工品は含めずに、静岡市場内の事業者アンケートをとって、その品目を家計調査に足した金額でやっておりますので、

【藤島委員長】

生鮮品ということになると相当少ない

【大池研究員】

実際この静岡市場の業者にアンケートをとったところ、90.3%が静岡市内の業者に行っているという結果になるので・・

今、静岡市場の取扱が 120 億くらいになるので、そのうちの 90%くらいは静岡市内の業者に流れているという形になります。

【藤島委員長】

取扱量の 90%くらいは静岡市内に流れていると、だけれども静岡市民が必要とする 20 数%しか供給ができていない、と。

【上川雄司委員】

10 頁のところで「2022 年に冷蔵倉庫を整備し、2026 年時点で年間 4,000 万円の輸出額達成を目指している」と書いてありますがけれども、冷蔵倉庫の整備にどのくらい費やしたのですか？

【事務局 長島市場長】

はい、冷蔵倉庫と一言で表現させていただきましたけれども、輸出のためにですね、卸売業者が市場内に、冷蔵倉庫に延長する形で「ドックシェルター」と呼ばれるもの、こちらの方を整備しております。

全体の事業費ですけども、私どもで伺っているザックリした金額で申し訳ないけれども、そのドックシェルターの整備、それに続く冷蔵倉庫、両方合わせて 3,000 万ちょっとくらいというふうに伺ってはおります。

【宮原晃樹委員】

宮原ですけど、ごっちゃになって頭が整理できてないんですけど、この会議でどういうふうに進めて行くかの確認なのですけど。

先ず静岡にとって中央卸売市場自体の取扱量がだいぶ減ってきたりと、色々ある中でも、「この卸売市場というものは必要だよ」「貢献度がある」ということの整理というものが、さっきの 18 頁だけなのかなあ。ここのところだけなのかなあ、ここがしっかり整理されていくのが大事なあと。

それに伴って「卸売市場の必要性がある」ということで初めて現状の、今の卸売市場の話になる。立地系の絵があったと思うのですが・・・

例えば 8 頁の、大きな項目のところでも今のところについてしまうのは、整理の仕方としてどうなのかなという気がします。

というのは例えば、先程全国に卸売市場が 15 頁ですね・・・6 のところに「他都市の状況」ということで「建替え済み」とか「(計画) 策定中」とかあるのですが、有名なところで東京都なんかは豊洲のところで移転しているということがございますので、今のところで建替えるという思いが強いとは思いますが、市場が静岡にとって必要なのか、またどういう規模なのか、そういったものが出てこない、役割とか、この地区で役割を考えるのか、もっと全体で考えるのか、現状であるものですからそこがブレちゃうと後々ごちゃまぜになるんじゃないかなあ。

【長島市場長】

今の宮原委員の御意見の方なのですが、おっしゃった内容その通りだと思います。我々としては先ず駆け足で説明させていただいて判り難いところがあったとは思いますが、開設から 46 年を経過して実際には取扱高が下がっているというのも事実であるんですけども、まだまだ市場経由率、半分近くのもの市場を経由して流れている事実もございます。

その中で老朽化している市場の施設、コールドチェーンの途切れ等も指摘されている現状ではあります。

しかしながら先程申し上げましたとおりやはり市場を経由している荷物は多いと、我々は考えております。その生鮮食料品の供給というものを、市場の役割としては、安定的に供給していく、という目的それから使命があると考えておりますので、このまま市場の老朽化を放っておきますと、市民の皆様のところに行く食料品の鮮度が保てない、あるいは、ますます市場から荷物が離れていく。安定的な供給ができないということを懸念しております。

そこでどういうことかと言いますと、市場としての機能をどうするべきかというところをですね、

公共性は我々は高いものと認識はしているけれども、あくまで我々開設の側の話になろうかと思いません。ここにいる皆様の方にその必要性公共性というものを、御議論いただく中で、必要性について我々以外、開設者以外の立場から御意見を賜りたいというところがひとつ。

それから機能と申し上げましたけれども、市場は46年経過していると申し上げましたが、実は冷蔵設備等こちらの方はまだまだ最新と言いますか近年のコールドチェーン等から考えますと、非常に遅れている部分というのがございます。このままですと、やはり市場機能そのものに支障をきたすというように考えていますので、市場として市民の皆様に安定して供給するという役割はあると思います。その辺を、皆様から御意見賜りたいというところと、我々が今運営しております市場に、どのような機能がこの先必要なのか、消費者側の立場、あるいは生産者側の立場から「こういったものがあれば市場を利用し易くなる」「市場からの荷物が安定して届く」という御議論を頂戴したいなと考えております。

#### 【藤島委員長】

卸売市場の必要性については消費者の方々も勿論ですけども、小売さんにも深くかかわってくることだと思いますので森下委員さん、いかがですか。特に必要性ということですけども。

#### 【森下登志美委員】

今、藤島先生から非常に判り易い説明を頂戴しているところですけども、手前どもに限りましては、他社様ありますので何とも言えないのですが、手前どもの方では多くの生鮮物を、当社は市内だけではないので、そういう意味では市内から藤枝の店舗、富士の店舗にも静岡の市場を通じて商品を供給してございます。

そういう意味では手前どもにとっては非常に重要な市場でございますし、公共性と言いますか、どこまで捉えるか議論はありますが、私20何パーセント気がつかないんですけども、それだけ静岡市民、清水も含めた、皆様方にとって、最終的に消費されるのは静岡市民ですので、そういう意味では重要かと思えます。

それと実は私、一昨日台湾から帰国したばかりなんですけれども、10頁にございまして、実は生鮮産品を今、今回行ってきたのは商談に行っていました。

先方に通関の問題があったりだとか、農水の問題があったりだとか、その辺を詰めてきたんですけども、これ1点質問なんですけども、1頁にあって、このように中央卸売市場を通して輸出をされているということなんですけども、この中央卸売市場の機能として、輸出に係る部分でどのような機能を果たされているか、ちょっと教えていただきたい。

#### 【事務局 長島市場長】

市場が果たして行く役割なんですけども、端的に言いますと、コンテナを仕立てるには多数の品物が必要になってくる。単品で1コンテナ仕立てるのはなかなか大変なことになっています。産地の方から1つの品目で仕立てるのは非常に大変で、買う方・・・バイヤーさんと言ったらいいのか、そちらの方々には多種多様な品目が欲しいと、その時に、じゃあ生産者、産地側で色んな品目を集めてコンテナを仕立てる、これは難しい。では、どうすればいいのかというと、冒頭御説明いただいた「市場の集荷分荷機能」、色んな産地から色んな品目を集めてまいりますので、「市場に来れば色んなものがあ

る」と。ここで海外バイヤーさんが欲しいものを混載して輸出する。そこでコンテナを仕立てるとい  
うところで、市場として輸出のための機能を果たしているというふうに考えています。以上です。

【森下登志美委員】

藤島先生から御説明いただいたように、どういう公共性があるのか、卸売市場の部分だけでなく、  
農林水産省の方で、盛んに日本の農産物を輸出しようという動きが目立っております。

これは日本の人口減少だったりだとか 1 人当たりの取得カロリー数が劇的に下がってますので、当  
然、消費の販路を求めなければならないところで、静岡の生産者の方々にとって輸出せざるを得ない  
部分からこれから益々拡大すると思いますので、公共性の議論からいって、この卸売市場の果たす機  
能が輸出に係る部分で非常に大きなことになってくので、公共性は充分にあると思います。以上で  
ございます。

【藤島委員長】

はい、ありがとうございます。

必要性というところで、出荷者側の立場から、山下委員さん、いかがですか。

【山下昌徳委員】

はい、必要性という意味というか、先程の色々な地域の市場の取扱高が増えたり減ったりしていま  
して、我々出荷者ですと、ひとつは農業者のビジネス行為でありますので、当然、値段の方をこう・・  
「東京の方が 100 円高い」「大阪の方が 50 円安い」当然、絡む話で、値段は一つの判断基準というこ  
とであります。

ただ、もう一方の側面としては、物流費とかですね、原材料費、非常に高騰しているということで、  
でき得れば「近くてコストが下げられて、お値段がそこそこお買い上げいただけて」というのが理想  
になってこようかと思えます。

そのひとつとして輸出、あるいは地産地消になってこようかと、そういう意味では静岡市場は我々  
の中でも当然、地産地消、地元産を食していただきたいという理念もございますので、必要性とい  
うのは間違いなくあろうかと思えます。

で、もうひとつ公共性という意味では途中にお話しもありました立地条件がいいものですから、本  
県に限らず、中部横断道が出来たりですね、新東名ができたりということで、非常に集荷する魅力が  
ある立地条件なのかなあと思ってますので、ただ、さっきの 20 数%ちょっとびっくりしたんですけ  
どね、必要性・公共性が高い市場、卸売会社、農業者にとっても出荷者にとっても必要であると認識  
しております。

【藤島委員長】

はい、ありがとうございます。

20 数%ちょっとわかりかねるんですが、たぶん生鮮品ではなくて加工品も入っている話じゃないか  
なあ。

これ、森下委員さんのところだと全体の仕入れのうち、生鮮の青果物のどのくらいをこの市場  
から仕入れられているかと、ちょっと内密の話かもしれないけど。

【森下登志美委員】

申し訳ありません。私も今、手元にないものですから、また次回の時にですね、お話し申し上げたいと思います。

当然ですけど水産と青果と違って来るけども、水産については非常に多くのものを、5割、近海ものについてはほとんど市内を使っているふうに考えています。

青果についてはですね、当社のブランドで「生産者の声を聞きました」という生鮮のブランドがございます。これ、わたしが来てから作ったんですけども、これにあたる部分で静岡市内、卸売市場を通した商品がたくさんございますので、相当な割合でやらせていただいています。

【藤島委員長】

機会がありましたら、どのくらいの割合か教えていただけますでしょうか。

これ、申し訳ないですけども、大池さんのところで、生鮮と加工品を含め青果物で計算、もう一度していただけますか。20何%は低過ぎる感じなんですよ。

【大池研究員】

一応、現状で家計調査の中で青果部の取扱高に入れているものが、葉菜類と根菜類とほかの野菜ということで、野菜は全部入っております、その他、乾物、海藻の中の豆類、蒟蒻類、大根漬、白菜漬、野菜の漬物、あとは果物の家計消費額の合計を使っているの・・・

【森下登志美委員】

よろしいでしょうか。

大池さん、総務省の家計調査？

(大池研究員：そうです)

なので、そういうように出てくるんじゃないかと思ったんですよ。

総務省の家計調査ですと2020年で3人家族で大体30万なんです、支出の総額が。

そのうちの25%が食料というようになっているんです、7万5千円くらいなんです。

7万5千円を30で割ると2500円。2500円でスーパーマーケットの平均客単価って平日が2,100円で、週末が2千2百～3百円なんです。

だから、そんな悪い数字ではない、ということです。

そのうちの大池さん調べられたのは、項目が出ているんで調べられていると思いますけど・・・この数字が良いか悪いかというと、そういう意味では粗々の数字になっているので、まあまあそのくらいの目安ということで、個人的には思います。

【藤島委員長】

ありがとうございます。

【山下昌徳委員】

今の数字でもし出せるならば、生鮮品、農産物とか加工品とか分けることが可能ならお願いしたいのと、あと季節、春夏秋冬ざっくりでいいんで、本県の場合、農産物で秋冬の産地ですので、冬と夏は出荷のウエイトが変わってくるんじゃないかと。

あと夏野菜、先程のパーセンテージが金額ベースなのか重量ベースなのか判りませんが、重量ベースだとどうしても大型野菜が・・ジャガイモ、玉葱ですね、重たいものが増える時期は当然、下がる。でき得れば季節ごとに出れば、想像ですけど、静岡は冬がぐっと伸びるのではないかと思いますけど、可能ならお願いします。

【藤島委員長】

はい、ありがとうございます。

【上川雄司委員】

先程、宮原さんも述べていたように、この地で建替を何故想定するのかということ、もう一度しっかり定義していただきたい。

というのは、「輸出とか農産物・水産物をする時に、清水港に近い方がいいじゃないか」とか、「市場も魚市場も港に近い方がいいじゃないか」というような、かつて意見があったように聞いております。そういう御意見も払拭というか納得させるためにも、何故この地で市場を再構築するのか、もう一度、丁寧に御説明していただければなど・・。

【藤島委員長】

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【百瀬伸夫委員】

今、色々数字の面で29%という話があったんですけど、驚くべき数字ではないなと思います。

というのは、様々な多様性が増して、逆に言うと選択肢が多いということなので、ある意味では市場の原理に沿っているんじゃないかと思います。

逆に言うと卸売市場の競争力が低下しているとハッキリ言えるんじゃないかと。

今後再整備するにしてもですね、新たに取引額、取扱高が拡大できるかどうか、あるいは海外に出るなど新たな市場がどれだけ見込めるかと、最終的な規模感ですかね。

おそらくダウンサイズしていくんだと思うんですけども、サイズを小さくするプラスどんな新しい機能を加えることで競争力が増すかと。これはやはり事業ですので、最終的に黒字化していかなければいけないもので、その辺の見込みというか落としどころをキチンと議論して進めていければ良いと思います。以上です。

【藤島委員長】

はい、ありがとうございます。

全般的な卸売市場の必要性重要性は疑いない、共通認識として持てると思うんですけど、ただ先程から御指摘いただいたように、この地で建替えの問題、規模はどれくらい、機能はどうかと、十分に検討しないとその必要性も最終的な結論を出せないよ、ということになるのかな

と思います。

引き続きそういったことについて検討していきたいと思うのですが、もうひとつの課題でございます、丁度機能のことが出たものですから、静岡市場のどういう機能を果たして行ったらいいのかと、どういう役割を果たして行ったらいいのか、期待される機能・役割というのはどういうことなのか、あるいはこういうところが出来てくれれば大変ありがたいという御意見として出していただくと大変助かります。いかがでしょうか。

#### 【葵区連合自治会長 中村満委員】

自治会の方といたしましても、今、卸売市場の老朽化で建替えという格好で進んでいくとしたら、麻機・竜南の学区を取り込みながら賑わいある流通センター、中央卸売市場というので、そういうものでお願いしたいと思いますけど・・・ひとつ場外市場というのも取り入れながらやっていったらどうかな、という考えも頭に入れながらやっていただければ、まわりの賑わいになっていくと思います。

清水の魚センター（＝河岸の市）というところも土日にはバスが何台も来ております。今やはり山梨・長野、あそこから、かなり他県のナンバーが入って来まして、かなり活気付いておりますので、その辺を考えながらいきますと、卸売市場にそういうところの魅力があるのじゃないかと思っておりますので、是非ともその辺りを考えながらやっていただければ有難いと思っております。

#### 【藤島委員長】

はい、ありがとうございます。

新しい機能やあり方について、特に増田委員さん、伊藤委員さんあたり如何にお考えでしょうか？

#### 【公募市民委員 増田新委員】

用宗の付属市場（いちば）の方も令和元年に新しく建替えまして、高度衛生市場（いちば）として、今までの市場（いちば）は屋根はあるんですけど鳥は勝手に入ってきますし、車も自由に通れますし、衛生面でガタガタの市場（いちば）でしたんですけど、「仲買さんとかバイヤーさんを連れて来れない」とか「こんなみっともないところでシラスを買っているなんて見せられない」そんな声が多々ある中で、全囲いの平面の衛生管理市場（いちば）を作らせていただいたんですけど・・・そんな中でもお客さんとかバイヤーさんもかなり来ていただいて、「この食の安全だったら大丈夫だな」というような、仲買さんの方からも「自慢できる市場（いちば）になった」という御意見もいただいている、とてもいいと思います。

ただ、市場（いちば）は良くなったけど、その中身、漁業者さんは結構安定して若い世代は増えていますけど、仲買さんがちょっと元気がないのかなと思うところで、需要と供給のバランスが今後、心配には当市場（いちば）はなっているんですけど・・・。

中央卸売市場の方も集荷はかなりできていても、逆に仲卸さんたちの元気さがどうなのかなというところで・・・施設は綺麗になれば良いに越したことはないんですけど、中身の仲買さんとか荷を捌ききれるのか、今後コロナとかそういう社会の情勢は色々変わってくる中で、社会的にはたぶんよくなっていくと思うんですけど、自分たちの市場（いちば）もふまえて、その辺が

心配なのかなと思うところで・・・そういうところをどう考えていくのか聞きたいところです。

(藤島委員長)

今のことについて仲卸さん等から御意見を聴いておいて、次回の時に、この辺のところは出していただくということでお願いしたいと思います

伊藤委員さん、いかがですか。

【公募市民委員 伊藤早紀委員】

私は、話が戻ってしまって恐縮なのですが、先程長島市場長からの話で必要性だったりとか、どのような機能が必要かという話で、ちょっと考えてみまして・・・

私は今回、市民委員として中央卸売市場のことを知り、丁寧な御説明やこのような資料をいただいたことで、とても必要性だったり役割を感じたのですが、市民の方々も同じように説明したり資料を渡すことで、みんなが必要性を感じてくれるかといったら、それは別問題だと思うのですね。

これから卸売市場を整備していく中で、市民の方の理解はやっぱり必要になっていくと思います。そういった中で、市民の方にどのようにアプローチしていけばいいのかという点から、私は情報発信ということが重要だと考えています。静岡市は市場まつりだとか一般開放も行っており、それはとても大きな情報発信のひとつになっていると思います。しかし、今、ネット社会の時代であって、わからないことや気になったことは、すぐにスマートフォンとかで調べることができる時代となっています。

そのため、私は公式ホームページの影響力がとても大きいとっております。

例えば、東京都や札幌市中央卸売市場のホームページは、動画や写真やSNSなども掲載されています。静岡市もそれを真似して・・・

いきなりそういう提案するのは少し難しいようにも思いますが、公式ホームページはイメージが形成されるものでもあると思います。

そのため、例えば、写真1枚あるかないかでも、静岡市中央卸売市場のイメージはガラッと変わってくるように思います。

必要性だとか信頼構築という点を考えても、インターネットを利用した情報発信という点も力を入れてもいいのかなと思いました。

また、市民の方が必要性を感じることで、どのような機能が必要なのか、どうすれば、もっとこうして欲しい、という意見も得られていくかもしれないなど、私は考えました。以上です。

【藤島委員長】

はい、ありがとうございます。

市民の方の理解を得なければいけないのは間違いないと思います。

具体的にどうやっていくということで、市民の考え方等をできるだけ吸収するというのはどういう方法があるのか岩崎君どうですか？マーケティングということで。



【岩崎邦彦委員】

市民とコミュニケーションを続けるというのは重要だと思います。マーケティングの観点から話と確認させていただきます。

今回「将来構想」ということなので、現状をベースとしながら将来を見据えることが欠かせません。藤島先生からの御説明はわかりやすかったと思います。卸売市場の公共性に関して、極力大量に且つ極力低コストとのことでしたが、将来も大量・低コストを維持することが、公共性なのかを確認する必要があると思います。

「引き算の発想」も必要かもしれません。集約化や強みに絞った展開や、量を追わず、小規模化で、質の追求や高付加価値化を行うことも必要かもしれません。

今回いただいた資料を見ても「十分な品揃えが確保できない」というような関係者の意見もあります。そもそも大量という、量の勝負では勝てないかもしれません。他の意見も「東京・横浜には量で勝てない」とありましたので、たとえば、県内の産品に絞って、高付加価値を提供する市場になるとか、あと、エビ・カニ・貝類が強いということであれば、その分野で「選ばれる（市場）」になるという発想です。

色々あるというよりも「これだったら静岡市場」のような「引き算の発想」も重要ではないかと思います。

ふたつ目が「掛け算の発想」です。将来的には「市場× $\alpha$ （アルファ）」で、掛け算で新たな価値を作っていく、企業や市民に「選ばれる」市場になることが必要だと思います。

市民に関心があるのは食材とか食べ物ではなく、市民に関心があるのは「食べるコト」なんです。ですから食事ということで「モノ」から「コト」への転換というような発想というのが欠かせないかなと思います。

先程意見の出た「場外市場」というのはまさに、食べ物というより「食べるコト」なので、そうした発想で、市民の関心を高めることができるのではないかと考えています。

掛け算する時に必ずしっかりした軸が必要なので、ひとつは食ですから「健康」を軸に掛け算するみたいな、健康施設を周囲に持って来るみたいなこともありかもしれない。

「食と医療」もありかもしれません。しっかりした軸を作れば、個性的なエリアになって、「選ばれる」地域になるのかな、「色々あります」か「量あります」ということではなかなか選ばれない。売り手にも選ばれない、市民にも選ばれない、のではないかと思います。

【藤島委員長】

はい、ありがとうございます。

今後の市場のあり方として、情報発信も必要ですし、絞り込みも必要だという話ですけれども、それぞれ御意見あるかと思いますが、時間も押して申し訳ないですけれども、こここのところ話しておきたいというのがありましたら、お願いしたいと思います。

【宮原晃樹委員】

都市計画というか土木的な観点からちょっと話をさせてもらいたいのは、最初にいただいた資料3の2頁目にあるように、事務局の方から提示していただきましたが、地区の周辺のもので明

るい話題がすごく多く見えるんですけど、例えば遊水地でこの地区は囲まれている地区になり、遊水地というのは雨が降っていない時は緑地とか色んな池とかがあつて皆さん集まったりするエリアなんですけど、字のとおり本来の機能というか、一番の大事な機能としては、洪水時のための機能になります。

ですので、この前の（台風）15号の時もですね、この辺りは水に浸かってしまっていて、中央卸売市場に行く道とか少し大変だったんじゃないかな・・という地区になります。

ただ、そうならないために、この遊水地はできてまして・・今（建設）事業中ですので、そういうものが（建設）事業が終わればなくなる方向でいってところがないとですね、「わざわざ水に浸かるところにまた（卸売市場を）作るのか」ということになりますので、そういうふうなことの説明が必要になるんじゃないかなあとと思います。

それと、今、川の関係ですが、道路の関係で・・この道路というのは下のインターから道路、トンネルで繋がって、道路ができて、すごく利便性が良くなって、横方向は国1バイパスが一体となって、本当に結節点として良いところになっていますが・・

使っている方は御存知と思いますが、渋滞とかすごく発生しているエリアになりますので、そういう意味で、この施設だけをやるというより、関連するものの整備も考えながらということになります。

そういう中で、中央卸売市場のひとつの大きなものは「物流」が基本であろうかと思えます。

そこに人を呼び込むようなものも当然考えなければならなくなる中で、そういうような動線的なものにも広く目を向けて行かないと、ここだけでいくものじゃないですから、現状についてもこの辺りも事務局の方から情報を出していったらいいかなと思います。 よろしくお願ひします。

#### 【藤島委員長】

はい、ありがとうございます。

確かに都市計画の観点からも今の話は重要なところだと思います。

#### 【経済局長】

すいません、事務局からひとこと。

事務局の目論見としては先ず最初に先生から御教授いただいた（卸売市場の）公共性の部分について、静岡市場の現状についてレクがありましたが、その公共のありようについてはカチツとした形で御意見をいただくということと、それプラス、御意見をまとめていただくという・・そのためには遊水地、地産地消の側面、色んなロケーションがこういう状況だからといろいろな話が出たのですが、こうしたところで市場の公共性を確保していく必要があるんじゃないかとまとめていきたいところなので・・・・・

逆にいきますと、あそこで公共で市場をやっていくためにはこういった部分の説明が必要じゃないかと・・冒頭に宮原委員から話がありました、ここから突然ここへ行くのはどうなのかと、こう言った趣旨での御意見をいただいていたものですから、説明を今後していくにあたって、こういったところを強固にしていく必要があるんじゃないかと御意見がもしこの会議以降でもありましたら、いただければありがたいかなと思っています。

公共性の確保の部分、もう1点の機能の部分、それから市民利用だとか周辺の活用だとか色々

話が広がっております。こういった部分も含めてご意見いただいたものを「将来構想」の方に反映させていく・・・ざっくり言うと、そういうイメージかなと思っております。

今後の進め方も含めてですね、この点を御留意いただいて御意見いただければと。

会議で足りない部分についてはメール等なんでも結構ですので、御意見いただきたいということ、それから次回についてはもう少しいただいた御意見・質問ふまえて、事務局から回答させていただいた上で、更に議論を深めていただきたい。以上です。

## 10 総括

### 【藤島委員長】

色々多岐にわたる意見をいただいているので、確かに纏め辛いとは思いますが。

今回は本日いただいたような御意見を基にしながら特にこの辺を確認したいというのを絞り込んで、また議題にさせていただく形にできればと思います。

確かに公共性というののも一般的に比較的可能性はあるんですけども、個別の市場の公共性となるとこれまた色々な観点から色々な御意見があると思いますので、こうだという形で言いきれないことがあると思いますけども、いずれにしろ、これは静岡市が開設者としてやっていくからには公共性というのには、それなりにはっきりさせておかなければならない。その点について次回、絞り込んでということよろしいですか。

(異議なし)

では、そう進めて行きたいと思えます。

機能につきましても色々な機能がありますし、衛生管理機能などもそうですけれども、そういった機能のあり方が公共性との絡みでどういったことになるかということもありますので、なかなか切り取って話をする訳にもいかないのかもしれませんが、一応はそれぞれの部分部分についてご議論いただきながら全体的にまとめていく、という形でさせていただければと思います。

あと、今後の会議についての御意見もあれば委員の方々からお受けしたいと思えますけども・・・

(特になし)

いずれにしろ将来構想ともなりますと現在地での建替だとか遊水地の機能をどう維持していくのだとか色々な問題が絡んでくるのは間違いないと思っております。

その辺のところを次回、申し訳ないですけれども事務局の方でまとめていただいて、御提案いただくという形で進めていきたいと思えます。

そうしましたら、今日のところは討議を終わらせていただきます。

以上で以て事務局の方に議事を戻してよろしいですか。

よろしく申し上げます。

## 11 閉会挨拶

大村局次長

以上

署名

藤島廣二

上川雄司